様式第2号（法適用企業・収益的収支）

投資・財政計画
（収支計画）

（単位：千円，％）

区分 ＼ 年度	前々年度（決算）	前年度（決算見込）	本年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度
収益的収支 収益的収入 1．営業収益 (A)	148,144	172,205	170,470	169,093	167,776	166,100	164,723	163,346	162,029	160,653	159,276	157,899
(1) 料金収入	147,577	171,618	169,883	168,506	167,189	165,513	164,136	162,759	161,442	160,066	158,689	157,312
(2) 受託工事収益 (B)	460	459	459	459	459	459	459	459	459	459	459	459
(3) その他	107	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128
2．営業外収益	11,942	74,997	83,459	86,320	88,958	99,501	98,336	92,868	85,048	83,504	63,503	55,170
(1) 補助金		5,275	18,150	18,026	16,104	20,009	21,222	18,883	21,238	20,302	6,556	1,967
他会計補助金		5,275	18,150	18,026	16,104	20,009	21,222	18,883	21,238	20,302	6,556	1,967
その他補助金												
(2) 長期前受金戻入	11,838	45,897	43,017	41,751	43,287	49,120	45,919	42,559	40,909	40,113	37,895	35,468
(3) その他	104	23,825	22,292	26,543	29,567	30,372	31,195	31,426	22,901	23,089	19,052	17,735
収入計 (C)	160,086	247,202	253,929	255,413	256,734	265,601	263,059	256,214	247,077	244,157	222,779	213,069
収益的支出 1．営業費用	153,071	289,539	285,863	295,636	283,760	313,162	307,053	295,076	293,123	289,567	282,349	276,735
(1) 職員給与費	32,184	40,187	40,253	40,585	41,062	41,513	41,899	42,220	42,381	42,399	42,446	42,842
基本給	17,804	21,342	21,619	21,890	22,176	22,448	22,681	22,857	22,955	23,041	23,071	23,290
退職給付費												
その他	14,380	18,845	18,634	18,695	18,886	19,065	19,218	19,363	19,426	19,358	19,375	19,552
(2) 経費	63,653	95,122	94,684	109,984	93,741	92,301	92,056	90,579	89,886	90,148	89,504	88,965
動力費												
修繕費	11,283	16,661	16,367	16,110	15,866	15,558	15,308	15,059	14,823	15,568	15,060	15,256
材料費	8,599	6,111	6,210	6,165	6,069	5,948	6,013	5,988	5,964	5,939	5,914	5,890
その他	43,771	72,350	72,107	87,709	71,806	70,795	70,735	69,532	69,099	68,641	68,530	67,819
(3) 減価償却費	57,234	154,230	150,926	145,067	148,957	179,348	173,098	162,277	160,856	157,020	150,399	144,928
2．営業外費用	2,692	10,965	11,444	11,552	14,586	21,208	22,871	25,257	24,747	24,205	23,588	22,893
(1) 支払利息	2,692	10,965	11,444	11,552	14,586	21,208	22,871	25,257	24,747	24,205	23,588	22,893
(2) その他												
支出計 (D)	155,763	300,504	297,307	307,188	298,346	334,370	329,924	320,333	317,870	313,772	305,937	299,628
経常損益 (C)-(D) (E)	4,323	△ 53,302	△ 43,378	△ 51,775	△ 41,612	△ 68,769	△ 66,865	△ 64,119	△ 70,793	△ 69,615	△ 83,158	△ 86,559
特別利益 (F)	17	50	50	50	50	50	50	50	50			
特別損失 (G)	657	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
特別損益 (F)-(G) (H)	△ 640	△ 450	△ 450	△ 450	△ 450	△ 450	△ 450	△ 450	△ 450	△ 500	△ 500	△ 500
当年度純利益（又は純損失） (E)+(H)	3,683	△ 53,752	△ 43,828	△ 52,225	△ 42,062	△ 69,219	△ 67,315	△ 64,569	△ 71,243	△ 70,115	△ 83,658	△ 87,059
繰越利益剰余金又は累積欠損金 (I)	9,271	△ 24,481	△ 43,828	△ 52,225	△ 94,287	△ 163,506	△ 67,315	△ 131,884	△ 203,127	△ 273,242	△ 356,900	△ 443,959
流動資産 (J)	162,105	128,443	133,460	158,108	170,089	151,869	105,057	31,231	△ 31,102	△ 83,094	△ 169,432	△ 276,740
うち未収金	14,906	11,906	8,906	6,906	6,406	6,906	6,606	7,606	7,106	6,606	5,606	6,106
流動負債 (K)	29,544	80,194	88,823	94,985	97,059	98,470	100,086	79,249	80,842	84,149	84,791	83,488
うち建設改良費分	17,809	62,539	71,400	77,816	79,801	81,514	81,969	61,460	63,403	66,724	67,730	65,265
うち一時借入金												
うち未払金	7,794	11,200	10,906	10,612	10,647	10,340	11,501	11,134	10,767	10,739	10,372	11,503
累積欠損金比率 $\left(\frac{(I)}{(A)-(B)}\times 100\right)$		△ 14	△ 26	△ 31	△ 56	△ 99	△ 41	△ 81	△ 126	△ 171	△ 225	△ 282
地方財政法施行令第15条第1項により算定した資金の不足額 (L)										51,848	101,161	185,190
営業収益－受託工事収益 (A)-(B) (M)	147,684	171,746	170,011	168,634	167,317	165,641	164,264	162,887	161,570	160,194	158,817	157,440
地方財政法による資金不足の比率 ((L)/(M)×100)										32.37	63.70	117.63
健全化法施行令第16条により算定した資金の不足額 (N)										51,848	101,161	185,190
健全化法施行規則第6条に規定する解消可能資金不足額 (O)												
健全化法施行令第17条により算定した事業の規模 (P)												
健全化法第22条により算定した資金不足比率 ((N)/(P)×100)												

様式第2号（法適用企業・資本的収支）

投資・財政計画
（収支計画）

（単位：千円）

区分＼年度			前々年度（決算）	前年度（決算見込）	本年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度
資本的収支	資本的収入	1．企業債	63,591	127,700	90,000	267,867	511,646	140,500	110,000					
		うち資本費平準化債												
		2．他会計出資金		24,800		126,300	115,100							
		3．他会計補助金												
		4．他会計負担金												
		5．他会計借入金												
		6．国（都道府県）補助金				131,389	181,958							
		7．固定資産売却代金												
		8．工事負担金												
		9．その他												
		計 (A)	63,591	152,500	90,000	525,556	808,704	140,500	110,000					
		(A)のうち翌年度へ繰り越さ (B)												
		純計 (A)-(B) (C)	63,591	152,500	90,000	525,556	808,704	140,500	110,000					
	資本的支出	1．建設改良費	82,374	212,525	120,573	556,158	832,308	164,180	133,598	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
		うち職員給与費												
		2．企業債償還金	17,462	65,254	62,539	71,400	77,816	79,801	81,514	81,969	61,005	63,403	66,724	67,730
		3．他会計長期借入返還金												
		4．他会計への支出金												
		5．その他												
		計 (D)	99,836	277,779	183,112	627,558	910,124	243,981	215,112	131,969	111,005	113,403	116,724	117,730
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)			36,245	125,279	93,112	102,002	101,420	103,481	105,112	131,969	111,005	113,403	116,724	117,730
補塡財源		1．損益勘定留保資金	30,326	63,284	84,446	46,747	18,550	87,426	92,113	127,375	106,366	108,664	44,514	23,401
		2．利益剰余金処分額											67,570	456
		3．繰越工事資金		33,409										
		4．その他	5,919	28,586	8,666	55,255	82,870	16,055	12,999	4,594	4,639	4,739	4,640	4,640
		計 (F)	36,245	125,279	93,112	102,002	101,420	103,481	105,112	131,969	111,005	113,403	116,724	28,497
補塡財源不足額 (E)-(F)														89,233
他会計借入金残高 (G)														
企業債残高 (H)			219,870	1,151,322	1,178,783	1,375,250	1,809,080	1,869,779	1,898,265	1,816,296	1,755,291	1,691,888	1,625,164	1,557,434

○他会計繰入金

（単位：千円）

区分＼年度		前々年度（決算）	前年度（決算見込）	本年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度
収益的収支分			28,996	40,338	44,465	45,567	50,277	52,313	50,205	44,035	43,287	25,504	19,598
	うち基準内繰入金		28,996	40,338	44,465	45,567	50,277	52,313	50,205	44,035	43,287	25,504	19,598
	うち基準外繰入金												
資本的収支分			24,800		126,300	115,100							
	うち基準内繰入金		24,800		126,300	115,100							
	うち基準外繰入金												
合計			53,796	40,338	170,765	160,667	50,277	52,313	50,205	44,035	43,287	25,504	19,598

経営比較分析表（平成28年度決算）

鹿児島県　中種子町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	85.39	86.65	3,564	

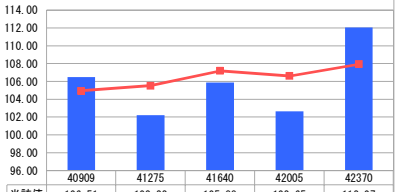
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
8,272	137.18	60.30
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
7,008	81.70	85.78

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【114.35】

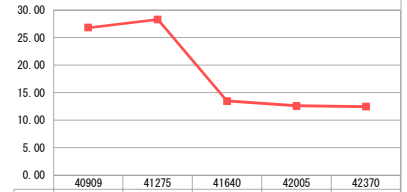


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	106.51	102.22	105.88	102.65	112.07
平均値	104.95	105.53	107.2	106.62	107.95

「経常損益」

②累積欠損金比率(%)

【0.79】

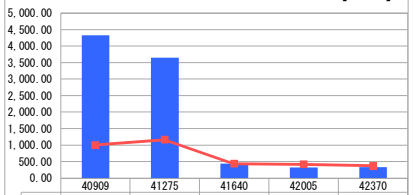


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	0	0	0	0	0
平均値	26.81	28.31	13.46	12.59	12.44

「累積欠損」

③流動比率(%)

【262.87】

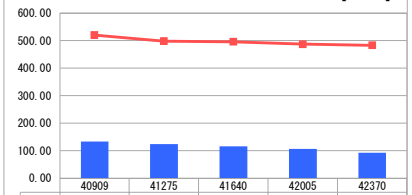


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	4330	3657.05	441.21	323.65	340.6
平均値	1002.64	1164.51	434.72	416.14	371.89

「支払能力」

④企業債残高対給水収益比率(%)

【270.87】

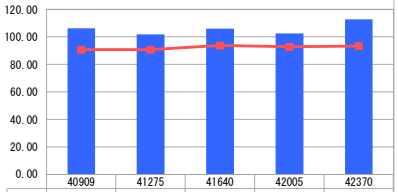


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	133.31	123.95	116.13	106.22	92.92
平均値	520.3	498.27	495.76	487.22	483.11

「債務残高」

⑤料金回収率(%)

【105.59】

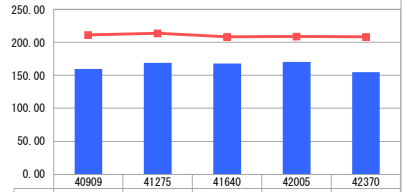


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	106.18	101.8	106.08	102.5	112.73
平均値	90.69	90.64	93.66	92.76	93.28

「料金水準の適切性」

⑥給水原価(円)

【163.27】

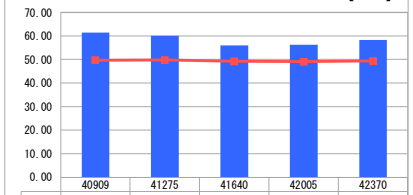


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	160.06	168.86	168.28	170.59	154.98
平均値	211.08	213.52	208.21	208.67	208.29

「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)

【59.94】

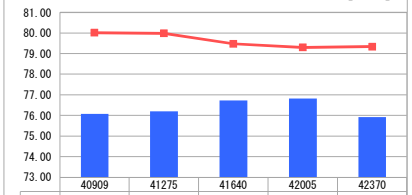


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	61.45	60.15	56.09	56.35	58.3
平均値	49.69	49.77	49.22	49.08	49.32

「施設の効率性」

⑧有収率(%)

【90.22】



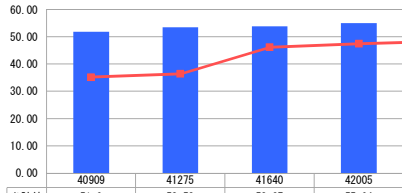
	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	76.09	76.2	76.74	76.83	75.93
平均値	80.01	79.98	79.48	79.3	79.34

「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【47.91】

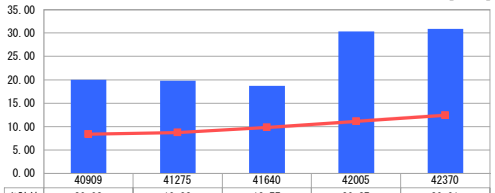


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	51.9	53.52	53.87	55.04	56.78
平均値	35.18	36.43	46.12	47.44	48.3

「施設全体の減価償却の状況」

②管路経年化率(%)

【15.00】

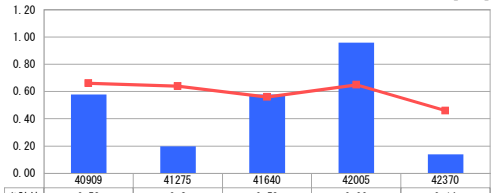


	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	20.02	19.83	18.77	30.37	30.91
平均値	8.41	8.72	9.86	11.16	12.43

「管路の経年化の状況」

③管路更新率(%)

【0.76】



	40909	41275	41640	42005	42370
当該値	0.58	0.2	0.58	0.96	0.14
平均値	0.66	0.64	0.56	0.65	0.46

「管路の更新投資の実施状況」

※　平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
　大きな修繕もなく経費が削減できたため全国平均と比べ約2%減の12.07%と昨年度より良い結果となりましたが，今後の設備投資の財源確保のため更なる経費削減が必要となってきます。
②累積欠損金比率
　近年は欠損金が発生していませんが，年々給水収益が減少傾向にあるため注意が必要です。
③流動比率
　全国平均を上回ってはいるが，年々給水収益が減少傾向にあるため資金の確保が困難になる時がくるので料金の見直しが必要。また，平成30年度から簡易水道と統合するため企業債の償還額が増加する。流動負債が増える傾向が続く見込みです。
④企業債残高対給水収益比率
　平成30年度に簡易水道事業と統合するため比率の上昇が見込まれる。また，水道事業でも管路の耐震化を実施するに当たり財源の確保から企業債を借り入れる計画。更に比率が上昇します。
⑤料金回収比率
　費用が料金により回収されているので，良い状態ではある。
⑥給水原価
　費用の削減ができたため近年より低い結果となりました。更なる経費削減に努めてまいります。
⑦施設利用率
　給水人口の減少により58%と低く施設規模の縮小と遊休施設の調査が必要になってきている。
⑧有収率
　以前から70%台で給配水管の老朽化で施設の利用が収益に結びつかない現状です。管の更新を急いで実施する必要があります。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
　約57%と全国平均や類似団体よりも高く老朽化が進んでいる。計画的な資産の更新，遊休施設の処分などを進めて行く必要がある。
②管路経年比率，③管路更新比率
　耐用年数を経過した管路が約31%あります。耐震化対策も必要な資産も多くある中，自主財源の確保が困難な状況だったため，更新が進みませんでしたが，平成29年度は企業債を借り入れて管路の更新を進めます。

全体総括

　資産の老朽化が進み，また，人口減少により施設利用率も低下しているので今後の施設の維持管理を含め施設規模の縮小を検討する時に来ているように思われます。
　今後，浄水場の更新も必要となり，現在の施設配置がいいのかなど項目は多いが，計画的に取り組んで安定した給水や経営ができるように収入の確保に努めてまいります。